

下北山村

サテライトオフィス誘致



1 雇用の場の確保に関する課題及び基本的な考え方

- ① 人口減少、少子高齢化、地域の担い手不足が課題である本村は、企業のサテライトオフィスの開設・誘致に取り組むことで、地域に新しい風を取り入れ、労働人口の確保、地域活性化を推進することが必要。
- ② サテライトオフィスの誘致に取り組んでいるが、村の環境や条件に合った企業や事業者とのマッチングが課題。
- ③ 施策 「地方への人の流れの創出」
- ④ 重点分野 「企業誘致とワーケーションの推進」

2 取組の概要

【コワーキングスペースBIYORI】

- 平成28年に遊休施設をリノベーション
- コワーキングスペース、オフィススペースを整備し地域住民と村外の利用者が自由に交流できる空間とした。
- 場所を選ばない働き方をするテレワーカー、本社機能の一部を移転するサテライトオフィスの開設等を推進。
- 移住施策として、村と多様な関わりを持つ関係人口を創出するべく「関係案内所」として地域おこし協力隊が主体的に活動する。

3 取組の効果 または 苦労した点や今後の課題

- 地元出身で、住宅外構設計やデザイン業務を中心とする事業者が1名入居（平成29年より）
- 今後、空室への企業誘致を推進するため、新たに個室スペースを改修し4月以降の入居受付を予定。

詳しくは 下北山村BIYORIホームページ
<https://biyori.localinfo.jp/>

下北山村

下北山スポーツ公園の活性化（観光振興の拠点整備）



1 雇用の場の確保に関する課題及び基本的な考え方

- ① 下北山スポーツ公園の二本の柱である「スポーツ合宿」は減少傾向にあり、新たなターゲット層を見据えた整備が必要である。一方キャンプ場は、一定の集客を見込んでいるが顧客ニーズに対応した新たな整備が必要。
- ② 合宿施設の部屋を洋式の個室に一部改修、そして宿泊施設内やキャンプ場エリアにWi-Fi整備を進めており、ワーケーションとして新たな顧客獲得を目指す。今後プロモーションが課題。
- ③ 施策 「観光振興と新しい働き方の提案」
- ④ 重点分野 スポーツ合宿の誘致とワーケーションの推進。

2 取組の概要

【サッカー合宿推進の為の取組】

- 奈良県との連携（フットボールビレッジ構想）
- 天然芝グラウンド良質化
- 宿泊施設の個室化
- Wi-Fi整備

【ワーケーションを推進する為の施設機能強化】

- エリア内のWi-Fi整備
- コテージ等施設のリニューアル
- ワーケーションプランの促進

3 取組の効果 または 苦勞した点や今後の課題

【サッカー合宿推進の取組】

- 新型コロナウイルス感染の影響で合宿客が激減の中、コロナ収束後を見据えたグラウンドの環境整備、客室の個室改修を行ったが、今後幅広い層へのアプローチを目指しグラウンドの新設と集客強化の為にプロモーションを行う。

【ワーケーションを推進する為の施設機能強化】

- ワーケーションを推進する為の施設整備を進めたが、今後滞在時間を促す遊びと仕事が両立できる空間づくりやプロモーションを行う。

詳しくは スポーツ公園ホームページ
<https://www.kinarinosato.net/>

上北山村

観光施設整備、運営による働き場づくり



1 雇用の場の確保に関する課題及び基本的な考え方

- ① 村内で就労の場が少なく地元への就職を希望しても選択肢がないため、村外への就職などにより、少子高齢化が進み、年々人口が減少。
- ② 観光立村として観光客誘致と観光での雇用創出を求め中、観光施設が様々な運営状況であり、合理的な運営や誘客と併せた雇用ができてない。
- ③ 施策は、村出資による運営法人設立により、村観光施設の段階的な管理運営一体化、及び観光施設の整備で、村の中心地への観光誘致による地域の賑わいや雇用の創出と地域の経済循環の活性化をもたらす。
- ④ 重点分野は、観光（施設再整備による地域活性化と雇用創出）

2 取組の概要

- 平成29年度旧小学校をリニューアルし、シェアオフィスを含む生涯学習センター「とちの木センター」を整備。（現シェアオフィス利用状況：一般社団法人ツーリズムかみきた、一般社団法人がんばろらえ・かみきた）
- 平成31年3月観光施設の運営法人として一般社団法人ツーリズムかみきた設立（とちの木センター内シェアオフィスに事務所設置）により、村観光施設を一体とした管理運営を目指す。
- 令和元年7月、道の駅におけるコンビニエンスストア運営
- 令和2年6月、観光拠点施設として宿泊温泉施設「フォレストかみきた」のリニューアルオープン
- 今後、ツーリズムかみきたによる小処温泉、大台ヶ原物産店の指定管理運営に移行予定。
- 村において、世界遺産の入り口としての旧和佐又山ヒュッテ、旧上北山温泉跡地を整備予定。

3 取組の効果 または 苦勞した点や今後の課題

- 宿泊温泉施設「フォレストかみきた」での正規職員従業員を村外から14人雇用。（うち、転入13名）
- 村内での人口が少なく、パート・アルバイトの確保が困難。
- 今後、観光施設を一体に管理するスケールメリットを活かした運営で、自然や田舎暮らしを求める村外からの移住者への働き場として、働き方改革や移住定住に結び付く雇用を目指す。

詳しくは 上北山村企画政策課 TEL07468-2-0001

川上村

一般社団法人かわかみらいふ 「新たな雇用創出」と「地域内経済循環の確立」による暮らし支援



2 取組の概要

● ふれあいセンターの運営管理

利活用されていない公共施設の指定管理業務を受託
図書館機能やコミュニティカフェを運営

● 移動スーパー・コープ宅配事業

地元スーパーと連携し、食料品などの移動販売
ならコープの宅配を受託し、日用品や生活雑貨の個別宅配

● ガソリンスタンドの運営

経営者の高齢化と後継者不在による廃業予定のSSを承継
生活に必要な冬場の灯油確保、消防団活動などの後方支援

● 訪問見守り・予防と早期発見による健康づくり

移動スーパーに看護師・歯科衛生士が同行し、健康相談
体操教室や子ども会活動など、地域での自主活動をサポート

1 雇用の場の確保に関する課題及び基本的な考え方

- ① 若者の転出に加え、都市部に住む子どもからの「呼び寄せによる高齢者の転出」による人口減少が課題。
- ② 日々の暮らしに必要な生活サービス商店や施設が、売上げ減少や後継者不足により廃業している。
- ③ ①②を役場若手職員による定住移住促進プロジェクトとして、「小さな拠点」整備による地域住民の生活サポート施策を提案。
- ④ まち・ひと・しごと創生総合戦略の重点事業として位置づけて、成果を求めて実践中。

3 取組の効果 または 苦勞した点や今後の課題

● 乳幼児人口を2015年の1.58倍にした！

直近の国勢調査でも人口減少率が大幅に減少

● 村民主体の一般社団法人を設立した！

村民+産官学金労福という運営体制を構築

● 年間売上げ2億円超を達成した！

1,300人の村で地域内経済循環を確立

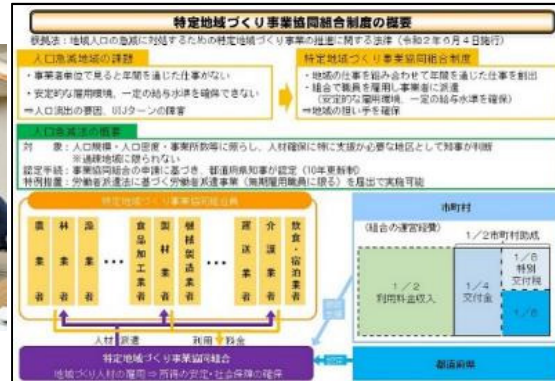
● 従業員26名、新たな雇用を創出した！

子育て世代の女性や高齢者が活躍中、生きがいと生業に

詳しくは「一般社団法人かわかみらいふ」
ホームページ <http://www.kawakamiflife.com>

川上村

事業協同組合かわかみワーク 「働きたい人」と「働いてほしい事業者」のための組合



1 雇用の場の確保に関する課題及び基本的な考え方

『川上村で頑張る事業者を応援したい』

【事業者の課題】

- ・ 人手が不足しているが、通年では雇用できない
- ・ 経営が厳しく、新たに人員が増やせない
- ・ 時節で必要な労働力に増減がある

『川上村で働く人を応援したい』

【働く人の課題】

- ・ 非正規雇用で将来が見えない
- ・ 多様な働き方、新しい働き方がしたい
- ・ 所得が低く生活が安定しない

2 取組の概要

地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業の推進に関する法律（R2年6月施行）に基づく組合を設立

- 「いきなり雇用・いきなり就職」のハードルを下げる
事業者・人材の不安を取り除き、気軽なマッチングを実施
- 季節や週月、受注状況に応じた労働力の確保
ダブルワークやワークシェアなど、新しい働き方を提案
- 事業承継や即戦力となる人材の確保
ここで働きたい！この人を雇用したい！持続可能な経営の実現

3 取組の効果 または 苦労した点や今後の課題

- 働き方改革やデジタル化などの具体的事業の実践を
国や県の施策を基礎自治体で実践し、成果を上げる
- 地方から新しい働き方を提案を
田舎に仕事はある！組み合わせによる一定所得の確保
- 就業先と労働力のダブル確保を
地域内就業人口増加による地域経済活性化
- 「暮らしの支援、林業の復興、人材の確保」の一体化した取組みを
かわかみらいふ、かわかみ社中、かわかみワーク

詳しくは「総務省 特定地域づくり事業協同組合」で検索

東吉野村

小川のまちづくり



ゲストハウス



シェアオフィス



チャレンジショップ



小川のまちなみとかめや

1 雇用の場の確保に関する課題及び基本的な考え方

- ① 小川地区は、基幹産業の衰退により、関係産業の減少、人口減少、少子高齢化となっており、地域に賑わいを取りもどすため、新たな雇用の場が必要。
- ② 移住政策を行っているが、働く場所の創出が課題。
- ③ 施策として、クリエイティブビレッジ構想を推進。
- ④ 働く場所を選ばずに仕事ができるクリエイターを中心に移住を進める。

2 取組の概要

- 小川のまちなみを復活させ賑わいを取り戻すべく、小川地区にシェアオフィスを整備し、場所を選ばず働ける環境を提供。移住者に施設の運営管理を任せ、移住者の立場から利用者へアドバイスを行う。
- 空き家バンクを活用し、シェアオフィス利用者等の移住を推進。
- シェアオフィス利用者や、地域の環境を体験したい方が利用できる移住希望者向けゲストハウスを整備。
- 地域づくり協議会の拠点を整備し、協議会の地域活性化事業の実施を促進し、移住アドバイザーによる移住相談も行う。
- 地域で飲食店を開業できるよう、チャレンジショップを整備。
- クリエイター等の個人に限らず、企業が地域にオフィスを開設できるように、サテライトオフィスを整備。
- サテライトオフィス誘致により、移住の推進と、地域の雇用を創出。

3 取組の効果 または 苦労した点や今後の課題

- クリエイター等の移住者 村で93人、46世帯（H25年12月～）
- シェアオフィス利用者等 延べ8,000人以上（H27年4月～）
- チャレンジショップ利用 9団体（H29年7月～）
- ゲストハウス200人以上利用（H30年8月～）
- サテライトオフィス利用 1社決定
- 更なるサテライトオフィス利用に対応するため、複数の企業が利用できるオフィスの整備に着手
- 増えるクリエイター等の移住者に対応し、村営住宅や移住促進住宅の整備も並行して実施。（村営住宅1棟、集合住宅4戸、移住促進住宅2棟、移住促進シェアハウス1棟、移住促進モデルハウス1棟 追加整備）
- クリエイター等の活動の拠点となる空き家等の確保が難しい。（空家バンク登録48軒中、利用27軒、残り21軒）

詳しくは 東吉野村ホームページ
<http://www.vill.higashiyoshino.nara.jp>